

平成29年度第1回宮崎県立図書館協議会 議事概要

平成29年8月9日(水)
宮崎県立図書館

1 出席者

委員9名、事務局13名、計22名

2 報告事項

事務局が、次の事項について説明を行った。

- ① 宮崎県立図書館の動向について
- ② 図書館評価について
- ③ 宮崎県立図書館ビジョン（仮称）策定の考え方について

3 質疑応答・意見交換

図書館評価及び宮崎県立図書館ビジョン（仮称）策定の考え方について、事務局からの報告を受けて次のような質疑応答・意見交換が行われた。

図書館評価について

【委員】

「図書館ネットワーク」とは、具体的にはどのような内容を指すのか。

【事務局】

県立図書館を核として、学校図書館、市町村立図書館、大学の図書館など、県内の図書館をネットワーク化して、1つの大きな図書館のような状況を作っていくことを指しており、資料の横断検索など、様々なネットワークを構築していきたいと思っている。

【委員】

図書貸出を伸ばす観点から、休館日を月曜から変えられないものか。学校では、土日の行事で月曜日を振替休日にする事が多い。

【事務局】

教育委員会の施設は、一律に休まず、文化施設はどこかが開館しているように

との配慮で休館日を定めている。御提案を参考に、今後検討していきたい。

【委員】

マイラインサービスは、別枠予算でスタートしたものであるが、今後も継続していくとされている。予算的な裏付けは大丈夫か。

【事務局】

このサービスは、県立図書館としての本来的な役割であり、今後も継続していきたい。県立学校5校とも新たにマイラインをつないだ。「主体的・対話的で深い学び」には図書館の利活用が重要で、学校図書館との接続は、今後拡大していくと考えているので、全力を挙げて予算確保に努めたい。

【委員】

主体的・探求的な学びが大きな課題になっていく中で、今後、BM(ブックモバイル)資料の大量貸出が重要になっていくと思うが、目標が上がっていくのではなく現状維持となっているのはなぜか。

【事務局】

BM資料は市町村専用で貸し出しているが、冊数が約5万冊と限られている。また、市町村立小中学校(図書館)への支援は市町村立図書館等が担っており、当館は、市町村立図書館等への支援を通じて間接的に市町村立小中学校(図書館)を支援することになる。マイラインサービスによる市町村立図書館等への支援が活発になれば、BM資料の利用は減ると考えている。よって、BM資料貸出については現状維持とし、マイラインについては増加としている。

【委員】

マイラインサービスについて、県立図書館等から本を借りる場合や、ほかの市町村立図書館から本を借りる場合の、本が届く日数が短くなり、利用者からも、「非常にありがたい。」という声を聞いている。マイラインサービスは、今後もぜひ継続していただきたい。

【委員】

「初めて県立図書館に来たのは何歳の時か」というアンケート結果はあるか。小さい頃から県立図書館に親しんでおれば、中高生になっても足が向くのではないか。小さい子どもをターゲットにしたイベントや映写会など、県立図書館に足を運んでもらうための企画があったら教えていただきたい。

【事務局】

御質問のようなアンケートはないが、年齢区別の利用登録者数を見ると、6歳までの間に利用登録をする子どももおり、本県の年少者の登録者数や読書冊数

は、全国的に見ても高い水準にある。むしろ、中高生になって受験や部活動で読書量が落ちていくのをどうカバーするかが課題であると考えている。

なお、子どもたちが早期から読書に親しむようにするための事業や取組として、乳幼児向けの読み聞かせ、子ども向けシアター、子どもの読書週間における集中イベント等を行っている。

これまで、国が策定した「子どもの読書活動推進計画」に基づいて県も市町村も計画を作る流れで来ている。今回、知事が「日本一の読書県」を唱えられたので、県では、子どもから大人まで、生涯にわたっての読書推進計画（全国的にみても秋田県のみ）を策定中である。

【委員】

「課題」の中で、「特に10～20代の利用が少なく、40～50代の利用も減少傾向にある。」とあり、「今後の方向性」では「貸出数の増加を図りたい。」とあるが、貸出数の増加を図るには、10～20代・40～50代がなぜ減少傾向にあるのかの分析を行い、対策の検証を行うということか。

【事務局】

「今後の方向性」の中で、「全県的な読書振興に資する取組を強化する」や「読書の機運の醸成等に努める」としている。10～20代を対象とした取組の例として、今年度、当館の伊藤名誉館長と高校生のトークセッションを行うこととしており、シニア向けとしては、大活字本を増やしたり、文化講座（古文書講座等）を開催するなどの取組を行っているが、「今後の方向性」の中で10～20代・40～50代についてさらに表現するかどうか、検討させていただきたい。

御指摘のように、要因をきちんと分析し、対策をきちんと講じることが大事だと考えている。現在、高校生を対象として「私のすすめるこの一冊」を募集しているが、各世代から「おすすめの本」を募集してそれを周知するなど、県民の皆様にも関わっていただくような取組も駆使しながら、全体の底上げを図りたい。

【委員】

子どもの読書について、学校図書館では、どういう働きかけをして子どもたちに読書習慣を身に付けさせようとしているのか。子どもの頃に読書習慣を身に付けないと、大きくなってからはなかなか本を読もうとしない。児童クラブの中で「まちのえほん図書館」という取組を行っているが、本に見向きもしなかった子どもが1年後にはほかの子どもたちに読み聞かせをするまでになる。学校図書館で、読んだ冊数を競うというような形ではなく、子どもたちが本を好きになるような働きかけを行うための支援を、どのように行っているのか。

【事務局】

市町村立図書館・図書室のほとんど全部が、周りの小中学校に出て行って、読み聞かせや読書活動の推進など、小中学生と連携した活動を行っている。その中で、図書館職員が学校の先生方と連携してどう子どもたちの読書活動を推進する

かについて一生懸命勉強しているが、アニメーション、ビブリオバトル、ブックトークなど、子どもたちを直接読書に誘う活動をしたい、そのために職員の資質を向上させたい、という思いが強い。

このため、当館では、アドバイザー派遣によって、市町村職員に直接、アニメーション、ビブリオバトル、ブックトークなどについて研修を行い、資質の向上を図っている。市町村からの申込みは、3年前までは2～3件しかなかったが、一昨年度から9～10件の申込みがある。

当館から市町村立小中学校には直接行ってはいないが、市町村職員の資質向上の取組を充実させていきたいと考えている。

【委員】

10～20代の利用が低調であるという話があったが、青少年コーナー（わかば）の本をどれぐらいの人が借りているのか。

また、新着図書コーナーや、司書が選んだPOPコーナーの本の貸出状況はどうか。特に後者について、職員が図書や読書の魅力をどう発見して、POPコーナーに並べた結果はうまくいっているのか。

さらに、著名な人・作家の本を揃えて、読書の大切さを訴えるべきではないか。

【事務局】

県も市町村も予算が限られている中で、合わせて400万冊の蔵書をどう生かすか、あるいはどう増やすか工夫しているところであり、県と市町村の役割分担として、県立図書館はできるだけ専門書や実用書を中心にそろえるようにしている。インパクトのある有名な人のベストセラーに近い本や著名な作家の本をどう取りそろえていくかについては、市町村と連携して対応していきたい。

青少年コーナー（わかば）の本については、1～2か月に1回のペースで入れ替えており、例えば受験シーズンには、受験勉強の合間におすすめの本を司書がブックレビューを読みながら選んで展示し、その横におみくじコーナーを設けたところ、けっこう高校生が立ち寄ってくれていた。

また、司書や司書以外の正職員、非常勤職員も一緒になって、新聞のブックレビュー、インターネット、読書や図書館の雑誌などから情報を収集し、あるいは、司書の経験で、この本を青少年期に読むとよいという本を選んで紹介している。

できるだけパンチ力のあるプレゼンテーションをしていきたい。

宮崎県立図書館ビジョン（仮称）策定の考え方について

【委員】

「主体的・対話的で深い学び」は重要であるので、目標設定を含めてビジョンに反映させるようにしてほしい。

また、ビジョン懇談会では「専門的職員の配置と育成」が重要とされていたので、専門性を発揮できるような対応を考えていただきたい。

【事務局】

一点目は、学力の向上などに貢献する意味からも重要で、県立図書館が直接から間接サービスへのシフトを考えなければならない中で、モデル的な取組も検討していきたい。

二点目の人材については、職員定数の関係もあるので、単に司書を採用することではなく、色々な知識や経験、人脈を持った職員を育成することや市町村立図書館との人事交流が大切になると考えている。図書館を動かす人が大切というのは承知しているので検討していきたい。

【委員】

ビジョンは行動計画か。目標設定は。

【事務局】

ビジョンは今後の方向性を定めるもので、具体的な行動等については、アクションプランを定め、指標、目標設定をする。

【委員】

ビジョンの考え方には、前の運営方針と同じようなことが多くあるようだ。実現していないことが多いのか。人材についても難しいことが多いのであろうが、工夫して専門的人材の育成をしてほしい。

【事務局】

これまでの取組と課題をまとめ、今後10年間に新たに取組むべきことも書いている。専門的人材の育成についても工夫していきたい。

【委員】

日本一の読書県との整合性もとっていくのか。

【事務局】

日本一の読書県は、県立図書館のみの取組ではない。学校、地域など色々な役割があり、それらの整合を図りつつ、県の読書推進計画を検討していきたい。

【委員】

図書館のターゲットをどうするのか。新聞コーナーは、せっきくの図書館の顔といえる場所にあるので、利用者を考えた対応が必要ではないか。

【事務局】

新聞コーナーについては、本年度どのようなようにあるべきかを検討し、次年度に少し模様替えができればと考えている。利用者目線での対応を検討していきたい。

【事務局】

今回提案した考え方、方向性で御了解いただけるか。

(全委員了解)

以 上